

# 私の復興

## 幸せのかたち

石巻市渡波の本堂前から海と街を望む。「地域の光になってほしい」

理事長を務める社会福祉法人が4月、内陸の蛇田地区で「石巻から保育園を開園させる。園の周りは東日本大震災の被災者の集団移転地の整備が進む。2014年、沿岸部のJR渡波駅近くに建てた「石巻ひがし保育園」に続き2カ所目となる。子どもはまちの宝物。歴史のある牡鹿半島の人口流出を食い止める東のとりでに。二つの園名にそんな願いを込めた。渡波地区の死者・行方不明者は519人。保育所2カ所と幼稚園1カ所が津波に襲われた。高台にあつて被害を免れた寺は最大で約400人の住民を受け入れ、5カ月後まで暮らした。

石巻市・洞源院住職

### 小野崎秀通さん(68)

# 子どもも育み浜を巡礼

11年のゴールデンウィーク後に学校が再開し、小中高生約25人が寺から通った。お年寄り数人が本堂の外で座っていた。子どもたちの帰りを待っていた。声が聞こえてきただけで顔がパツと明るくなった。

大きな力に気付いた。

「子どものいないまちは消えてしまう。育てる環境こそ地域に必要な」

12年夏ごろから保育園の整備に走る。2億円近い借金を抱えたが「やめるわけにはいかならぬ」。

ひがし保育園は0〜5歳児計86人を預かる。カメ。カメ。ラッコ。ペンギン。イルカ。クジラ。クラス名は海の生き物だ。「つらいことが多くても海を嫌いになつてほしくないから。海なくしてこの地域の復興はない」

曹洞宗永平寺(福井県)で修行し、1977年に帰郷。90年に住職になった。お勤めでは震

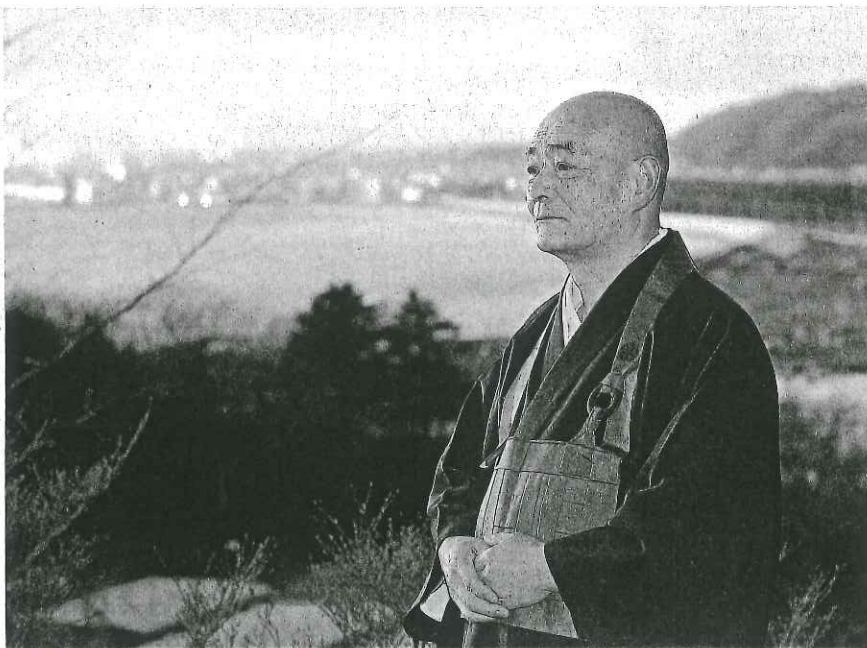
災犠牲者にも祈りをささげる。被災地の海で「浜供養」を重ねる。

お勤めに加わりお経を覚えた避難者から「支援を受けてばかり。何かお返しできないか」との声が上がった。世話になったことを人に向ける仏教の「回向」を實踐するため、11年6月の月命日に始めた。

3カ所を巡った初回は約70人が参加した。家族を津波で失った檀家(だんか)もいた。供養を始めると雨が降り、終わると上がった。寺に戻り、お経を上げた。

晴れ間が見えた。

みんなの表情が穏やかになった。



洞源院から故郷の海を見る小野崎さん＝石巻市渡波

牡鹿半島の44浜をはじめ北は南三陸町、南は山元町と計86カ所を回った。一周忌を終えた12年4月から冬場を除いて毎月続ける。

巡礼用の装束を着た檀家有志と車で向かう。仮設の祭壇の前で読経し、高知県の仲間の寺から託された地藏の札を海に流す。

「生きながらえることができなかつた人の思いはどれほど無念か。苦しみなから亡くなられた御霊(みたま)が仏縁で救われてほしい」

4月から再び浜に立つ。巡礼は終わらない。(沼田雅佳)

津波被害を受けた渡波中が2017年、地区に移転新築される。家族が定住できる条件が整うのは明るい材料だが、復興が進んでいるとはまだ実感できない。寺の裏山は震災の影響で土砂崩れの恐れがある。昨年に復旧するはずだったが、土砂埋め立て地の造成が遅れ、工事に入れない。復興事業は遅れるほど住民の間に諦めムードが出る。スピードが大切だ。

私の復興度

# 40%以下

東日本大震災4年11カ月